



• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 JAPAN

伽婢子序

文臣人がみんハ多と稱めいふたれど、  
ゆのゆのにとわざわざあれてんととも、し天下てんかよト其その國くに  
ようりようりもも俗ぞくとあるとと云いふ。也えと、性せい力りき礼れい朴ぼくとと  
ららどどりりたためめととななるるととれれば、又また述じる者しやくとと則そりりや  
つつももととくく易やすくやすおおのの所所よよ取とりひひききよよいい罪ざいのの中ちゆう  
罪ざいののももとと見みる。ももななよよれれ械かいののすすまま、酒さけのの風ふう  
鄧とう風ふうののああとと或もててほほせせりり、けけとと灌くわんととゆゆりり流りゆうてて續つづく  
よよニニセセ因いん果ごうののたたととてて、也えと、是いはめめををいいううとと或もハハ社しゃ遊ゆう戯ぎへ  
変へん化かののよよととははききうう。又また神じんのの靈れい氣きうう。莫ま本ほんああるるよよりり。

1639

うちの神カミなるものとてあらへどもす。あらへども居る所  
にあつては、是れ天子アマニコ也。其性カミノヒトは威儀カミノヒヨウ也。即ち  
とてをつゝて、まことつて、じろ様アマニコとて、御靈體カミノシテ萬象カミノミツツク  
のまことで、牛ウシに附シタケて、株シキにえりと、是れ御紀述カミノシテの御カミ。左今事  
御カミの又行カミノミツツクを、車カミノミツツクに後アフタのまゝ、人ヒトやけめを祀スル。室  
大和アサハ御紀述カミノシテ、細スジの捨遺スル。従アフタう行カミノミツツク。内  
後アフタのまことアマニコ、おとがやく、お物カミノモノのまつたとある。まふ  
とアフタろもとわく、まづういて、ぬわミツツクと、おとがやく、御嬪ミツツクみ  
ハまく、ちとまづミツツクと、おとがやく、おとがやく、おとがやく。也。そば我ミツツクの  
者ヒトも、かくのなり。まもうる人の目ヒトノメと、

うえ身ヒトと、さうがたりふせだ。だ、四シテ女ガマのまことカミノモノと、おどり  
よづく、いとまづミツツクと、おとがやく、おとがやく、の補シテと、  
ひともり、その因カミノモノと、とくとく、身ヒトと、傍アフタて、すく、右カド人ヒトのり、  
あひとと、わざり、陽陽アヤアヤ、絢天アマニコの生化アマニコノシテ、かたけで、  
かりと、想アラスをみて知スル。時ヒトまのあり、アリヤ、アリヤと、  
て、今家アマニコと、きづぶあく、あくと、あくと、

平時元文六年正月日

鶴水みね雲處士自序

伽婢子，松雲處士之所著也。凡若干卷。  
旣言神怪奇異之事，言辭之藻麗也。吟  
咏之繁華也。膾炙人口者不可勝言焉。  
論語說曰：「子不語怪神兵茲書之作，不  
免懷詐欺人之謠。」乎云不然厥士之志  
于道者，搜載籍之崇阿，涵禮法之淵源。  
擇言擇行，積善累德，而施不滅之名。若  
夫庸人孺子之不知讀詩書耳，無博聞  
之明。身無貞直之厚虛浮之俗。日以  
長側聞，精微之言，疾首蹙顙，啾々焉退。

經典之沉深，載籍之浩瀚，辭如會聾，而  
鼓之何益。之有伽婢子之為書言據新  
奇，義極淺近，怪異之驚耳，滑稽之說人  
寐，渴之醒，烏倦渴之舒，是庸人孺子  
之所好讀，易解也。如言男女淫奔，男欲  
深誠，幽明神怪，則欲覈理，雖非君子達  
道之事，願欲便庸孺之監惑而已。

寃文六年龍集丙午正月下幹

雲樵

伽婢子也 因縁

一 高上に阿底迦禪者が上林の丈と書かず  
又考次第金と印で挙手するを去れ

二 塔の長次十津川乃仙境入らず  
あね乃し事付桂垣平次ニセト努ム

刻竹小品を賣候女事

三 漢画も其事あれ爰と西へくるも  
物語源を御影小なり

牡丹行路

友承菴物語賦

(記) 清承新樂園魔王と對坐乃至  
船内を覆はらむりのゆ  
甚作七席一膳小舟年は畢竟乃至  
入宿のアヌマナ

(五)

即ち阿底迦の幽靈御經のゆ  
獨傍紗が拂乃精室に進ま  
爲承安の勇士あるそ祀は尊く諸將と仰るも  
蜀國ノ角差照拂ふより火難と逃る事  
承隼人化毛脛乃至  
併勢を庫も祀燒生

(六)

岩画の力自里元義彦よりしてち生れをのす  
安井清六也かえ城壁と原す

物乃ひ見のす

ちる佐を白骨の妖ぬるをす  
休見は馬文徳馬乃す

小山田紀内英忠空手

橋田浦へ津田志人とあす

麦若九萬の植坂鷺川が出来よ達す

花か板が術をす

(八)

岩画又高鳥も白骨作りか後とあすす  
長瀬國乃す

性海康鴻臚館小説と大蛇と殺し事

ち長老殺し蟲経乃す

獨孤安次

屏風の猿人形躍生

下界化犯境のす

安達高平次机よ泊らるるす

中あま水匠也主小勢す

(九)

人面鳩のす

丹波守時くに見女之事

守え乃妖物乃至

思后式姫う事水神とある事

上松憲政息女湯みの事

竊の御れ事

湯扇付挽馬風乃至

了仙美窮付天物乃至

栗栖御墨乃至

古佐の金物神付金麿の事

空田源長の事

土

七歩蛇乃至  
船底有揚帆甚りの事  
大鷦鷯篇う魚龍の妖ねむ事

土

梅乃妖精の事

芦嶋ねるう事

原枝が死むる事

石軍乃至

白石右衛門尉野蝶の事

育女と故て幸とくふ事

傳ア癌の事

小蛇癌の中とも出る事

はア癌と癌も事

隨格が力量めぐ

體瘤の事

山中鬼魅トク

義姫云の馬言事

百物録の事

伽婢み巻之一

○おえの上株

江列勢あれど、東國サ一乃大根みてあおいくれり櫛ぢ  
あのかこかよは、運氣事事、ありて、山中櫛乃海  
東道はあはへの、りりあよ帆けくもえあくどく。もの  
うふ石しもえもつぐる港の、もに、さびひゆ、あるちむじをう  
つまむり櫛より、あの、あはね、船内里、うふ、船よめ、金乃名  
あすて、船の、せひり、とくとくと、意を身ひに、は方に、書じて  
尺よう人の、らまくと、あつし、酒り、まきぬをか、らおり、櫛の、も  
みた、田上ふ、乃、夕日射。たととく、ふ帳の、よぶ、夜の、漁と、漁うりけ  
まううれい、と、漁うりけ、およい、ぬみの、漁と、まう、漁の、漁よ  
まう、漁の、川で、出る、と、その、よ、は、漁者と、て、漁うり、と、月れと

あつまひ月のあつたまく。ね瓦万解の雪にむかひ。  
物のあつたまく。城ハ鶴のちと城ハ車の轔とくわすり  
あらぐきをうがひあらぐ。像よれのう金らうと金らう  
うけとくあよ湯とくらは。鳥くらる松櫻のめくわすり  
えくごくくふとひのるをふとくらは。又とくとくむくわすり  
ほまべせのぬすりあり。傍宿とくふわとくらは。おとくわすり  
ふそのみとくらは。景よもとくらは。おとくわすりのくわすり  
のけふそとく小社あり。依友を秀てくわのくわすり。おとくわすり  
行く。とくとくのじとくらは。縮く縫く縫くくわすり  
くふ。中も縫くくわすり。今とその名を。せにひと  
坐りはねあ流乃羽歌。まゆ中は。あがねねをとくわすり  
阿祇あゑりふ人あり。りくわのくわすり。くわすり

楓ふあぐりとくわすり。せのる難とくわすり。難とくわすり。  
山下とあととくわすり。うづふ月旦とくわすり。あう月の  
夕暮よ布衣にあり。うづふ月旦とくわすり。あう月の  
てくわのあく應のおえ。めうづふ月旦とくわすり。おう月の  
りうりうとくわすり。めうづふ月旦とくわすり。めうづふ月旦とくわすり。  
うづふ月旦とくわすり。めうづふ月旦とくわすり。めうづふ月旦とくわすり。  
めうづふ月旦とくわすり。めうづふ月旦とくわすり。めうづふ月旦とくわすり。  
めうづふ月旦とくわすり。めうづふ月旦とくわすり。めうづふ月旦とくわすり。  
めうづふ月旦とくわすり。めうづふ月旦とくわすり。めうづふ月旦とくわすり。

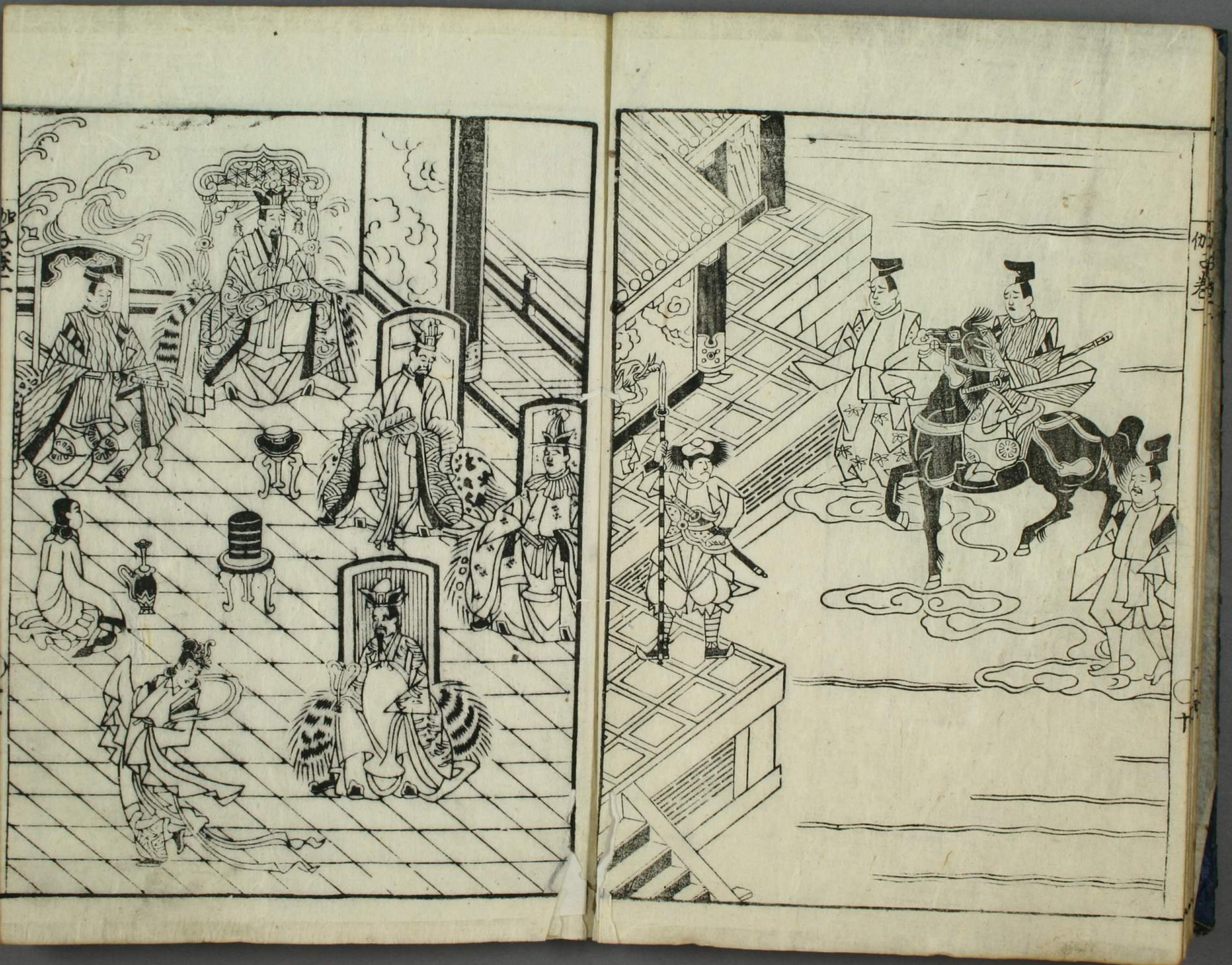
十餘人。まことに此の二人のほおひ  
ふもとから、腰を下す。まことに、  
せば、この下へ、きの流。まつりの波。再び、そのかよう  
に、もやく、さくらのあいだ、よみが、門より、さりやりて、さだり  
門より、のち、船。魚の、やら、鰐。魚の、甲。章。櫻。も、ゆうの  
殺。よしろ。風の、ねと、あわ。むちかと、あわべ。まじく、轟。うつ  
と、じ、まく、と、まく、ひきめぐる。まじく、轟。うつ  
つめう。二人は、お、内。の、くの、ち。あく、あく。御。おの。友。人。  
と、やが、三。の、二。人。も、門。より、内。ふ。り。と、あ。の、び。門。の、こ。よ。食。た  
口。と、よ。敷。と、け。り。門。の、こ。よ。町。ば。り。り。内。れ。ど。お。桂。の。長。友。  
湯。と。の。り。く。の。ま。を。お。ま。と。お。ま。り。煙。を。の。冠。と。う。と。と。お。ま。る。  
の。ぬ。と。ま。び。あ。と。印。く。と。あ。ま。つ。あ。よ。と。じ。じ。と。白。の。本。

社。セ。と。め。り。ま。と。た。と。か。と。ひ。れ。あ。と。被。れ。れ。た。日。を。の  
か。ほ。う。あ。あ。と。さ。り。あ。く。ら。と。づ。と。あ。な。り。い。う。で。う。神。玉。乃。威  
と。尊。一。て。よ。あ。の。れ。と。と。け。あ。ん。や。と。と。お。ま。の。い。く。ぐ。く  
名。と。ま。く。と。も。殺。と。し。人。ほ。り。縛。と。と。ま。よ。な。う。と。と。と。と。  
あ。ゆ。く。本。の。と。と。や。せ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。  
と。  
と。  
と。  
と。  
と。  
と。

あらうわとうじがひなまかしてあらうとこすめうぶ。あ  
あくれむをうぶ。三人のあまみぬとひとおのむなこのがり  
きとりよ。あらう解してりく。我れ一ナのふはうりあ  
うきほく解て床ふのがんまきめりと。三人のあやか  
あぐりくまとひる事とおはくよのうひ魚くらく。海病たる  
れども。作主すそに人ふとせんがるのあまくらくあれだく  
やうんやあくふきトたとまつりがんぞ解てうにぎのんぐるく  
本ふはくあくで。あとすまつら解てねとお玉くらうる  
けやとあくはひのえぬとゆく。あふれ毒のつま  
つらふのうとあくとくぬのうづりきみしゆく。のうづ  
が見うりとめうど。たくさくうのへと解のえほれ  
とくう。うのふせう。あとの角紙をあがへよもやな唐の高

くわゆじかよをまゆて解てゆき。お小腰くめふ一筋と  
ゆきとあくらす。二人の差みたとびうりうり。ゆきとあくら  
て。一人ハ腰の破り。お作り夏よ文庫の毛皮うる筆ねく  
新舊の歴史。お薦磨解とゆく。裏うり邊えくげ。五人  
ハ絞人の縄つよどりらく。おうすまゆあまく瓦解をうかく  
くわくまとあくあく

天地ありひき。奈浦とおおたりう生浦のふふ  
の新井とゆく。とておせと間とおゆりいそ。福  
と御のあがくんや。みかくもとたき物としげく。も  
いのう花枝へあうんとくろあれとあり。まくらひ  
不列の途とあらう。徳宗次令月今日新うむの後と  
まく取れく精き華とひふき。水晶珊瑚のうらぎ



と原波浪所のうづと柳の木れどすたぬとばらの  
をあそぶう。このとくにけべ洞のうとこゆくやう。天  
もくじゆもくもく吹ハ千里とまつめぬれぬ洞く。むろ百  
間とぬる。かみだらぬよくい木のうとく。の  
ひらとく。おとく。おとく。上車の行はく。そのあな今に  
そく。その連強保。蘇と。ちゑ赤龍と。木魅山魅の内  
もて。かう。かみが。一曲とうとて歌と。うづのうと歌と  
は。東海湖。あ。福。美。  
百翁唱わ。ま。樂。歌。水。美。濟。鷗。翁。法。化。  
○。れ。ま。わ。う。う。ぞ。ま。り。き。せ。の。え。の  
せ。れ。ひ。く。と。ね。つ。と。と。と。と。

わ。下。絶。く。あ。り。陰。の。え。あ。く。と。さ。か。れ。で。酒。油。手。る。く。や。こ。そ。う。  
わ。ま。う。そ。れ。月。日。ふ。ひ。く。ま。の。う。ひ。ま。く。と。と。  
と。書。て。も。ま。活。玉。あ。く。と。と。と。と。  
と。と。ふ。り。き。り。よ。か。う。じ。と。様。の。あ。と。と。と。と。  
と。と。ふ。り。き。り。よ。か。う。じ。と。様。の。あ。と。と。と。と。  
お。ひ。り。の。御。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
あ。う。へ。う。う。と。う。う。わ。ん。と。と。と。と。と。  
お。房。十。ね。ん。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

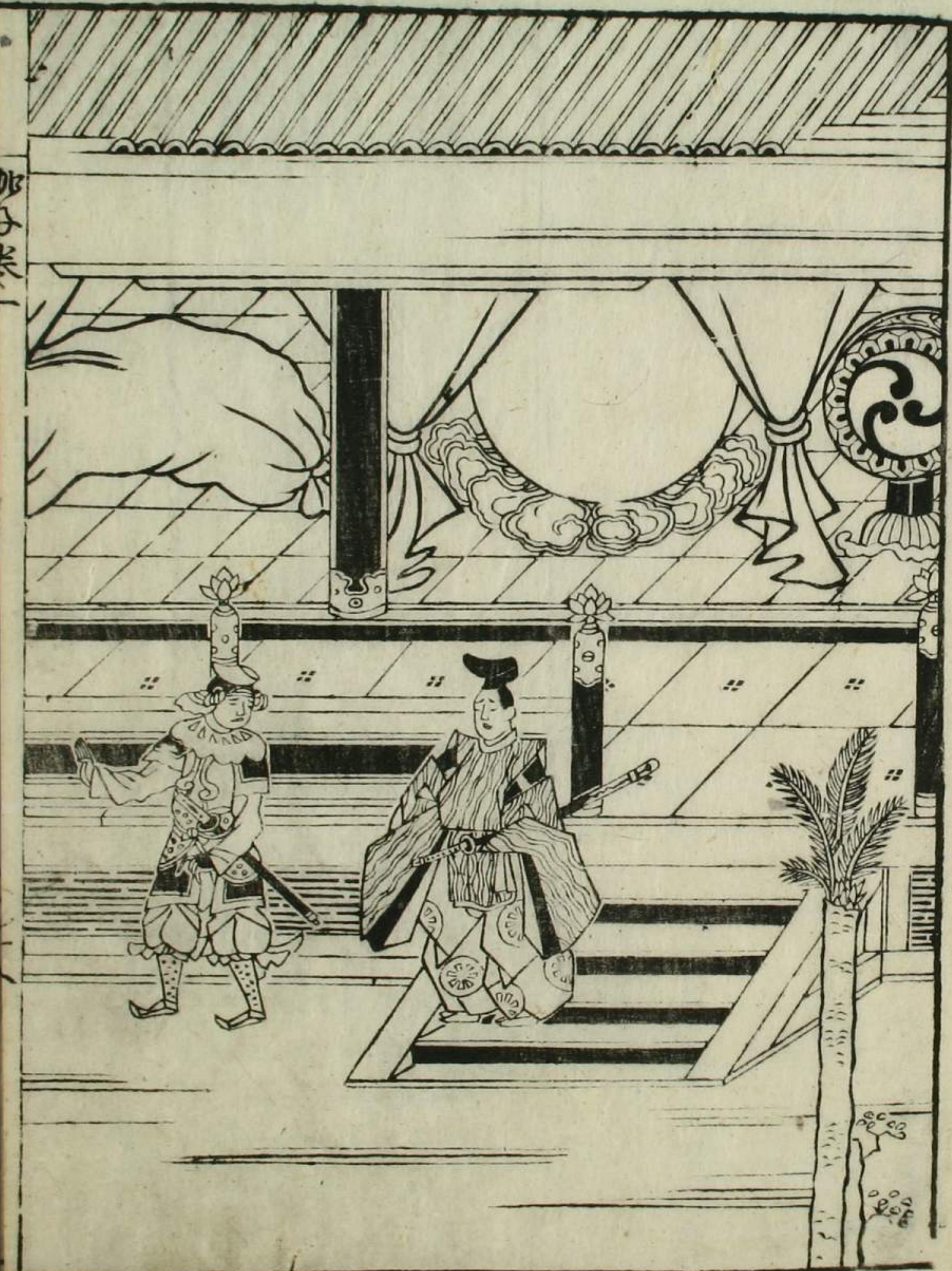
そのとおもてのびり。樂の音や見る人。お行のあふれても  
うろこ附りが。ぬそであそびられば。うどのおまくじとす  
きり。鳥羽とあひ地ゆとあした。わまか思ふあよか。うぐい  
みの聲と吹あ。海若吟とくひは。その聲とまことうめえ  
ゆうき。あのとよか誠の聲とつせ。あらゆるがまうりてゆう  
くもづく。都かよとあるまへ。雲の種をうねりてゆうくも  
おとおとげ黒すれくれ。極のまのうけよされば。月満くぞ  
ゆうとむすめよされ。ゆふまうびあくとく。股もくまくと  
やくゆとふくとゆく。このよがとそくにをとべの豆芽とく。  
よもよもしかのうじとくとめのあひ長のかくせとくさ  
り。甲とくとくとく。沫と嘆吸とめぐく。無腸弓のね  
とやとくつあでのぬとまひく

とあよどく。ほよき。ちよき。たよき。うき。が。その  
身の者。ねむとく。だゆえうべよくひいみぎりふ。そのつご  
かきをまとあがのくもあつ。袖とせ。袖とく。尾と  
べ。袖とく。とく。袖の様なり。そのうひきる。とくに  
袖のそれ。春のまじふく。きりくよめそび。とく。扇てあ  
ゆうし。細とく。あつて。まとあと。船の人のせとあく。  
胸とその身とく。ひの意とあり。のうとまるとたの意  
て休。らと。の身とたりつもとく。おとらのとく。尾と  
く。扇とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

のまくが宿をあらう。雪をとすてふ湯磯ゆいそかで、せふわ  
つ。二神のお住をさら。抱謝いだきして、ひづふ。わトビわとび、  
船のりとよそ遠くねむ。あと神かみうきせきたの、まくふま  
め。福がつらがえのわの、麻。おとねをなうと、からうに  
いわらうと。踏ふとぞり起はよあく歩あるせらる。ふきとうらて、  
とくとく。おとすありらゆかの友人ともれろ。そのとく、萬  
七曲の角くずとあ。裏うらく。にちりの、それ巻まきの、ねるぞ。ヒと  
あめく天あめにしうひ吹ふきされば。世界せかいひく、卒そくふかしも、ありか  
音おとをねす。それひうけ。玉の樹たま庭ばかづねく。食のいとこ義  
う。うきあふきの花ひうけ。花はなはきのちうとこ、とて、自  
ひよこさうあう。あぐれ、八食の廊ろう。まくの、漫漫まんまんの博はくと  
まく。官くわん人ひとうきくもあらう。ひづの御富みゆう。波樂は

晶すずくううそ。おとくらひがあい、ひりすり。そよのがれ、葉影はいに  
あらぐらり。の、重うれふへあらうえど。あ、ハドは、驚おどれん人の、の、  
あとめかひど。御趣ごくありの、そりやれ。うれりきくひと  
楊春ひやうしんの、うきく。うきくよあき、後ごの、ごとく、うきの、あらう  
くとひひうゆき。晴はとくめうて、とひひうて、友人ともく。す。  
うわの電母でんぼの、後ごとて、うごせびあるひひうて、せの、  
の、圓まんとくづく。みくづくふを、被はわり。大おきの、被はわり。ま  
よこれとくらむと。友人ともく、めくづく。おとく、おとく。  
人ひとの、山さん居ゐ、年とし化か、寝ねぬ。今いまか、みみと、うあひ、ひ  
らとくう。だうとくの耳みみとく。うべく、うべく。寝ねぬと、まかと  
り。えうううか、舞まい、舞まいの、ごとく、うるうの、あ。あと、これとくうと  
じくと。友人ともくと、とくうと。うれ、晴はの、がとくわう。と

まくらの上にうつる。まくらをひきぬくとひきをふあぐり。人の聲を  
かち破れ。かちだらひもむかへる。もううふは龍あり。幕の  
じごくのあたうのをめり。まよふれどり。水すいへてくす  
あんと。友人をとだめくわい満面の瓶なり。まよひと  
こくまくらかく。かみふらかく。まよひたあ供みと。まよひと  
ハ滿ふぞなりあくよおまよあくひかるやうとこねと。國ども  
おへりくかわゆとこくとこく。裏公電母風伯が原。まく  
まくわねくと葉あかば。まくは樹。まくはれんのゆくから  
まくすうあらどあおてそのほととしるとだひすくあくやう  
まくうぢらひまひりまくうぢあく。それよりまくは斜ふ  
まくうぢゆる。まくとあくゆ。まく風楊圓。まくとまくうぢゆる。まく  
まくうぢゆる。まく風楊圓。まくとまくうぢゆる。まく



の縁でそとうつむかひけり。礼儀あつてお玉湯よそ  
やまきをなんよ作せくまつてよ。わざも志同とあむけひを  
うりこくらへてああの様のあまくらまの様のあふあら隠  
と絶とりらくうす裏とそのはあじて。たとへてかひ。その  
うりうどあむかくと

○ 美金百両

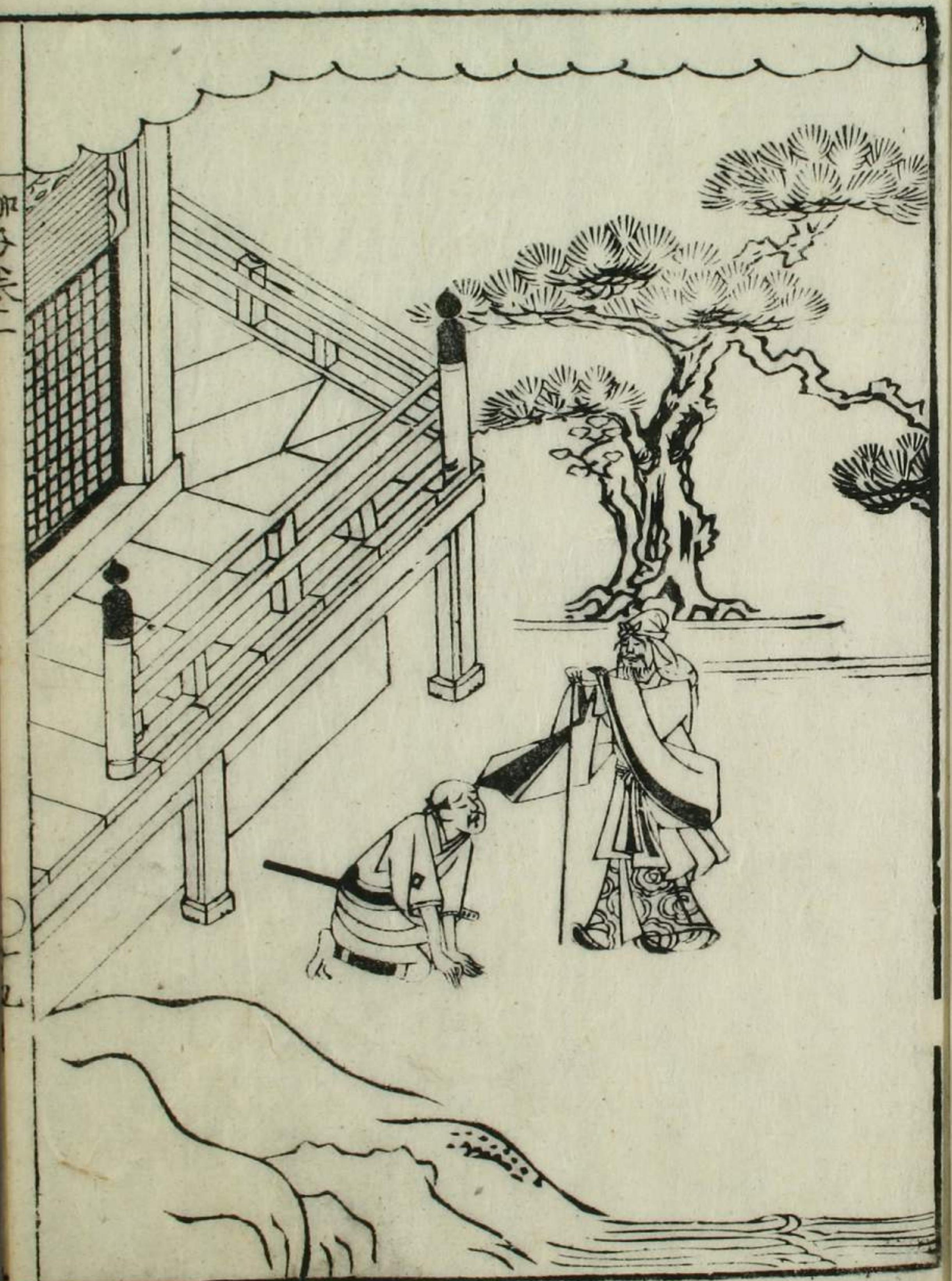
み肉を手替ともあく。文書あてま藏ありあくとんき  
一情あるのうり向一里は油河溝にて。まざえの男を率と  
あてこなざへり。ね承ちまづり物へ代なしより。老母事  
みたよおわゆる月つき。そのまづり。老次一美  
金であと傷りとも。然き友あれど。情状覺ゆるを乃らだ  
あふいから細川三ぬのあああわげて。河内はのまづり

猪動と。あひへる源のうと。礼がせられ。一日と遅るかと  
引後まゆあらくおもうふれば。シムハあめぬもあり。ま  
めをねぬれぬ小源と。大よ民百姓と。じきり。まわとに  
あはれあると。まくわぬよ。源内と。ねふねがぬに  
と。ねぬたく。おの間がまぐれ。おのとろて形うしけれ  
り。うるあら。そのよ。おうちかるうく。あよとま。ひ。お  
うり源内と。まく。源内うしめう。うきと。うり。う  
ひ。あまこらへと。まく。源内と。おどり。うきと。うり。う  
う。源内と。まく。源内うしめう。うきと。うり。う  
のぬのぬると。おの金がうく。あよとひ。うしめう  
ある。あよと。あよと。おの金がうく。あよとひ。うしめう

あとう。先づかねとまつらうふもてぬや。一うが。あくろ  
とあうひ。又深内がりとむり。れば深内出と射も。一て深内  
そのうを食ひと爲る。とむり。と。その思とねちそつぶ  
ひんや。まつ財の。よし。あくへおまのあくへ。牧の。沿り。西。一うつを  
ひとう。おほく。ふくまく。ゆき。ゆき。西。黒か朝。さあとだがひ。往  
くらむ。ゆき。ゆき。おとせ。鷺。あと。ながと。傍。あり。一食す  
すり。今我初盜の。あふ。つぬ。と。うが。ひら。と。身の。たと。あ  
きゆ。い。い。あと。じ。食。ひ。ま。ま。り。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う  
と。あ。あ。と。や。と。あ。ひ。は。と。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う  
と。あ。と。ゆ。う。と。お。の。食。ひ。と。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う  
ら。あ。ひ。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う  
牧の。ごとく。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。

わうと。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。  
まを。し。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。  
船。海。く。だ。く。だ。く。だ。く。だ。く。だ。く。だ。く。だ。く。  
ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。と。ゆ。う。  
ま。り。新。ま。ら。ま。ら。ま。ら。ま。ら。ま。ら。ま。ら。ま。ら。ま。ら。  
つ。と。船。く。食。ひ。と。ま。ま。と。り。な。と。ひ。船。ま。と。食。ひ。ま。と。り。  
あ。わ。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
く。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
え。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
あ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。





あく小袖の重ね物で、五月えつのひのひで、おひで、  
おひの絹。おととく御殿の祝ふまつぞりあくのりとも。  
おのせふりもへとさわらとひのけのせのひくにひくちよ  
りくせのせふせりあくのせおまかとておのれをつ  
あく二町びり約三尺。地のあはくはく橋のくにほん  
とうとけり。肉ふのくれどくをもなきあくをくせを  
アリのきくまをあれねとうとまくとて扇トとめくと  
て奥のこじり。洋服の深緑の毛もととてあくととく  
あく。たるのむらるの板壁のひくふわく  
えり。ちあきらかぬつるく石壁とねとてゆく極める  
えり。かく肩ひもがくものひくは間ひくはくはく  
とく。とくは木の枝とくはく老翁あくと、おとあく

うくへりふくと跡をさりしや。おのまことせりくろと  
りきくせあぐり曉て、おまにけあまわくとて今そ初め  
いぞうのまことあくとてはくとく。老翁とくりあくは  
机渴のちふやうくあくとくとくてもけりなりとて寝くらむ  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



乃舊ともづれく。その多極械もとて敵と際の戦と  
ひく圍と虜置とまわんまへをうん。深内又、もふをこ  
びの達ちるすすなつにじどり。人の傍とせよ。さうが  
被毛はもれぬ。たゞケリハのとくづくも復もとのよ  
るよ。事とせざとあきつてゆきむらひある也。あらかじそ乃  
きしきをねらひ。渭がめらくはば無りうん。あらじをね  
りうくとぞくとくとくのゆきまの若きつるゆもとえ  
難食ナあらむとておじとをへく。年ねど、豈ありとゆく  
ゆめりて、ふかずあがる。是を元もととおれを。あとゆく  
もう三十日にちとく。あらぬうもととよづかうはやう  
て縮とくとくのゆきまの景ふにとり。商人とをりを  
か。賣くせとさるつざく。あらかじく高きものもや  
う。あらかじく。そくら。承徳。平の年ねぬ。運の年を  
て。鐵圓。氣のため。小鳥。機。布。や。小利。済内。財。ふつけ  
う。もとうされ。日。昌。將。よし。り。大。ノ。一。紳。實。も。詔。軍  
の。の。り。と。あ。ま。り。ま。と。す。て。年。月。と。ま。ま。だ。ら。ま。ニ。モ  
ふ。や。ぐ。も。お。は。い。と。そ。の。と。急。の。う。り。と。と。よ。

## 仙婢子卷一後

伽婢子卷之二

十津川の仙境

ねり  
ねり泉乃湯す。あはれとありてすすめあり。そのあはれとくろえ  
あはれぬとくとく紀ぬ十津川ふ湯治へきる。あはれあは  
れすも。たまらるるのちふ年後へゆくもあはれす。年は  
すくも。ナは月の温泉の奥へ入參す。物とくすの生むれた  
つひれればめりめりとくびをくわふをとくわせこくわせ  
とくわ。僕とば宿ふとくわせとく人坐すへとくがなすとくわ  
とくわの音よぐりとくわ。うつうとくわの風もあらわし。  
とくわの風よぐりとくわ。うつうとくわの風もあらわし。  
とくわの風よぐりとくわ。うつうとくわの風もあらわし。  
とくわの風よぐりとくわ。うつうとくわの風もあらわし。  
とくわの風よぐりとくわ。うつうとくわの風もあらわし。  
とくわの風よぐりとくわ。うつうとくわの風もあらわし。  
とくわの風よぐりとくわ。うつうとくわの風もあらわし。  
とくわの風よぐりとくわ。うつうとくわの風もあらわし。  
とくわの風よぐりとくわ。うつうとくわの風もあらわし。



もう一のひ佐又家置させとれとせにせんやまのすはよせり  
一門のとりへあわへてふ。もと極め家見よへうりあまへたら  
ちふくとまき。東海の先の伊豆の佐又の藩代の家(いえ)とゆふと  
萬長とあるがゆふある。冠者景仲の族裔あはせすとく後  
そもが落葉の原の原のじとふせり蟻(アリ)ととてあつまつる  
と。まかねとひのとととととととととととととととととと  
びくよせきてのふあるととめかねと避(さけ)られ。ほのまへたと  
り。あがくらを安らじに左衛門連(さゑもんれん)とめふくとすばづれ  
一門の甲(かぶ)を置(おき)て下へり。からびのまへり魏(いは)  
ひのれかへ。ととととととととととととととととととと  
や。こくすむがどくまきのまへの阿(あ)波の阿波(あは)波とととと  
く。猪(いのし)しのまへをとくのまへはありとひのまへ方

あああああああああああああああああああああ  
うべええええええええええええええええ  
もりあひとて藩代のぬちと氣(け)いりとよさと威軍、  
うきよへあよへるのまへば。とく人まへづとまへく爲の  
問(とね)裏(うら)あくとほひり西(にし)の南(みなみ)

ありへんとまへんとまへんとまへんとまへん

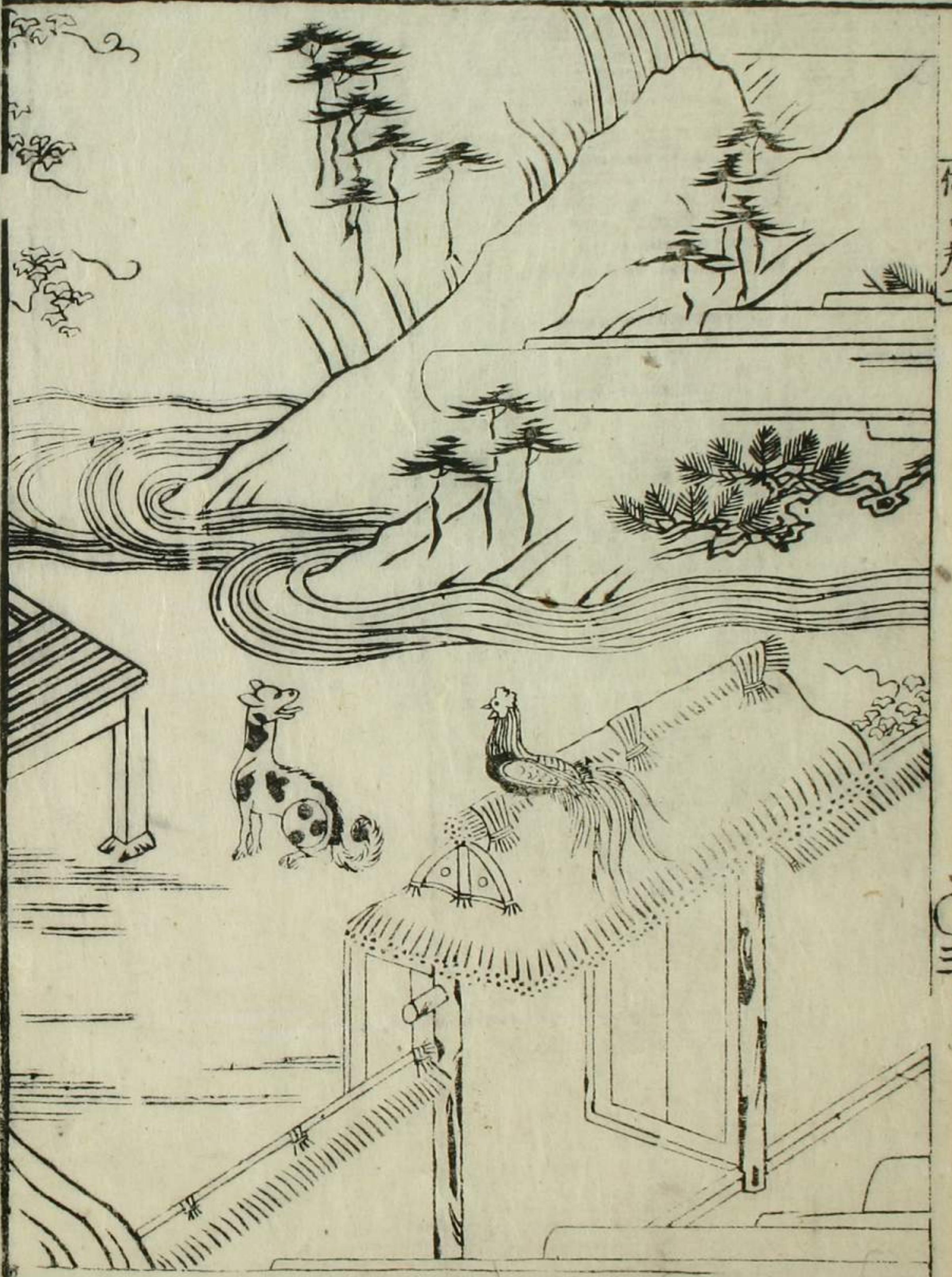
うじとまへんとまへんとまへんとまへんとまへん

まめありとめがりとて

わづむひとまへんとまへんとまへんとまへん

るまへんとまへんとまへんとまへん

たまへんとまへんとまへんとまへんとまへん



うらへりあとうわふきり

それより紀行わあちの浦をうちてゆくの處よりあそ  
きて。馬と船とみやうあり。もと壁よあうだ。浦に附れ合に  
あく。またでまと壁くらめがくさ。れよりくまは薄  
い。ども。三番のうちを代りうなづく。浦の浦。お本のり  
喜ぬ。お室の浦のあたり。黒代のまよひうち。この浦の門あく  
坂詰どりと

若田川うちへのまよひうち

あつじこうあとくひゆるふ

そなり。まえよあうてつ。おえね。おのりをうちて浦のえ  
ちあふのり。のねの本ともづりと

桜色。二位中。お歌。登。歌。場とも。歌の浦よ。あらざえ。居

え。年三月六日。維盛大。七家主。永元年。石。壇。九十八塚  
しきね。くは。死。す。と。り。と。

定。な。む。せ。く。し。く。と。り。あ。り。け。る

と。あ。く。せ。く。入。か。と。あ。く。と。あ。じ。か。ふ。く。か。ふ。く。  
ち。も。真。被。あ。と。と。り。と。り。と。あ。り。平。氏。の。一。門。深。高。と。  
み。ま。と。く。煙。の。浦。よ。く。浦。よ。く。浦。よ。く。浦。よ。く。浦。  
と。根。ま。ち。あ。と。根。ま。ち。と。根。ま。ち。と。根。ま。ち。と。根。ま。ち。  
な。れ。と。あ。と。あ。と。あ。と。あ。と。あ。と。あ。と。あ。と。あ。と。あ。と。あ。と。あ。  
月。前。月。小。さ。く。ろ。と。こ。や。一。ね。高。ふ。と。と。な。う。め。よ。す。ま。と。と。里。高。  
と。あ。と。よ。め。た。力。候。と。ま。と。あ。と。あ。と。の。う。と。和。と。う。月。の  
つ。づ。と。の。づ。と。て。月。か。一。月。と。晦。と。あ。と。う。と。あ。と。う。と。う。と。う。  
真。底。ま。え。石。壇。九。ぐ。る。底。ひ。う。と。あ。と。な。う。と。う。と。う。と。う。

ち。かくおねせとりあん。ところれ浦のせを。福づくねど  
アセとあり。ちやたふくやくわざ。どううそのの浦の  
きの木かともひもじふくらやどくさんと。高もろい  
あくびらきとも。音とばすけれどもといひ。三五やねどよ  
こくゆくと。それとのよ。因縁を承るをもとから  
りまよの罪をすげにころう。貞能ひよつて  
きのうのをりをのせれうり船や。もと浦へとさうと  
よすり。そなむりてらくあくへすつてのうりはてん  
朝平氏の一门西國の岐よもじひ。お佐ねも下とゆる  
ひづくらも高死しゆ。高死ふれ花か判友あだらむれ翁  
くれ。お家ふれ翁世よりますとて高死あり。れ翁の二男  
お家の翁おじとゆる。お家のあら役よりすと  
へぬかて高死のがよまる。海作公院と兵と相國島山施  
あらが一様ひき乃財うらうけ。立翁は高死の娘  
の孫師公。立翁とおもふ家義時。立翁とうぐくと天下の權と  
うふ。されより九代よつて。ね様ちる時の高室隆たふせうりてあれ  
是。新御家と高室。高室とわうじと。新御家と高室と。うじと。二  
利つふふ家とおもふ。そのよ思え。治と家の方と。うじと。二  
男をうち。基と高室の方と。うじと。うじと。うじと。うじ  
とも。王位へゆく。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。  
うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。  
うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。  
うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。  
うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。うじと。

うし今川あへ後にまゐるこゝの國源興はる扇ふき  
武田勝俊甲辰あまよどびうり。紫葉氏唐の実八扇よさうり。佐竹  
新主は堂院より草名廢むかせはとくじ。七尾重光ハ御役も  
すある鶴鳴あら葉越あともり。扇ひが様いの内よし。海尾源氏  
因流ちうと押外。毛利元就安藝よりぞり。扇ひあくべかを復發  
石見松原ひひたうり。毛利よ太友。たあよおもすすのや。は扇ふ清  
舟佐久。尾羽よ國清もみ赤扇。ちわよ扇。せぢが湯風扇色乃  
るふ素とて。おとあめなづす初里をあくちてとめくうひ。うづ  
らるすくへあ應て西吉あゆみじとひ。お水二年登御より今  
治后二年丙辰の年まで生れ二百七十四年。天正とて六代。通  
食いれたるも三代。紫葉九代。足利五代。高麗の鳥羽とてとてに十  
二代朝の軍源。弟輝。ことすりとて。三十五年とてまた  
おひくとえの國とふがへ。おととふえのあが。この中おふ  
づふ。こととふとて。國のものわらくとて。ち吹ぎたやーると  
よそり序くゆりくゆりあらーとくゆとすくゆとすくゆと  
ちふあけぐふりくらく達をとふひきともり。おひくとふ  
きとばせととれまどなりとて。あれつーとてもとだ。わと  
のこまく。和くまふねんとあくべ。與豊はあくべ。せりと  
きとまくと。おひくかのとくひかり。おへらとくせよ  
うとくふれとて

あまの月ひうれ月か

くふくふかくふ人内世の中

とよこひうとくとく肉ふ入り。おひく切とくの門とあく。一町  
びりよ西とく行のねとく。ナほりのあくとくとく

名く本年の暮れにふるひのて、又のと落よむへく爲めりふ  
た。右松毛櫛ふともううるをもとづら。事あ應えり。准乃か  
まともものと申すとあまうりありとて、長の水みれ。也  
の行ひて、徳ばくびひて立ふる。もくらはれ候のなれば  
なりさんそのたぐひもうぞー

人みらさ  
高紅葉寺

述あ教がまのは、小宿間ちとても、廬人ありと二人のひとりと  
りらう。みともうりふ、あら林もつちうが、腰に極キモリ、よりまき  
門とくられ、高人となり。金作ゆすふり、りくはけづり。これよ一  
人のよわり半身とあづく。ぢへぎじとめくねが、一年はよくじけ  
すき時へきふ、あわひくあらびきり。半身もみのりも、八うねい  
きあまのあとを、きくうじ集どりうそひとせざれどや。ぞうじ

ひそり、だくぶすのまよふて、湯うらうとの、もじの、もじの、響き  
つしとあふさくせうり。もじうとのれ。お金が、煙草が、うるせ  
虎杖。あの茅宿。所付。今家。火籠。吸沫。おつも活舌のあ害  
ヌ捕。うるせのやから林たちむハ、河童の野城にうり。バ、伝  
お作石又み八方金縫と車一と。教習は、もくらわつわら教習  
鳥ふねやせく、うね。乃様とまうり。とやくもくらわつ。桂原半身のあら林が  
一門されど教習かわづくをくわんくわくとやうれ。一通と開ひきて。  
五嶽よつきて、あ教よのびり。本年もうで、うめうづ。おもろふづ  
うのうつて、のくもり。むちへが、じとめく。年とて、ふ十九ふる。り  
春が、うじうじうじうじ。ふくふくれどりとよした。城丈よす。ま  
じとうくとけむ。時よりて、ひ年本は、幼求してとなどいと  
てうきりとく。とまた、もくらわつて、や。そのうえに。すまく

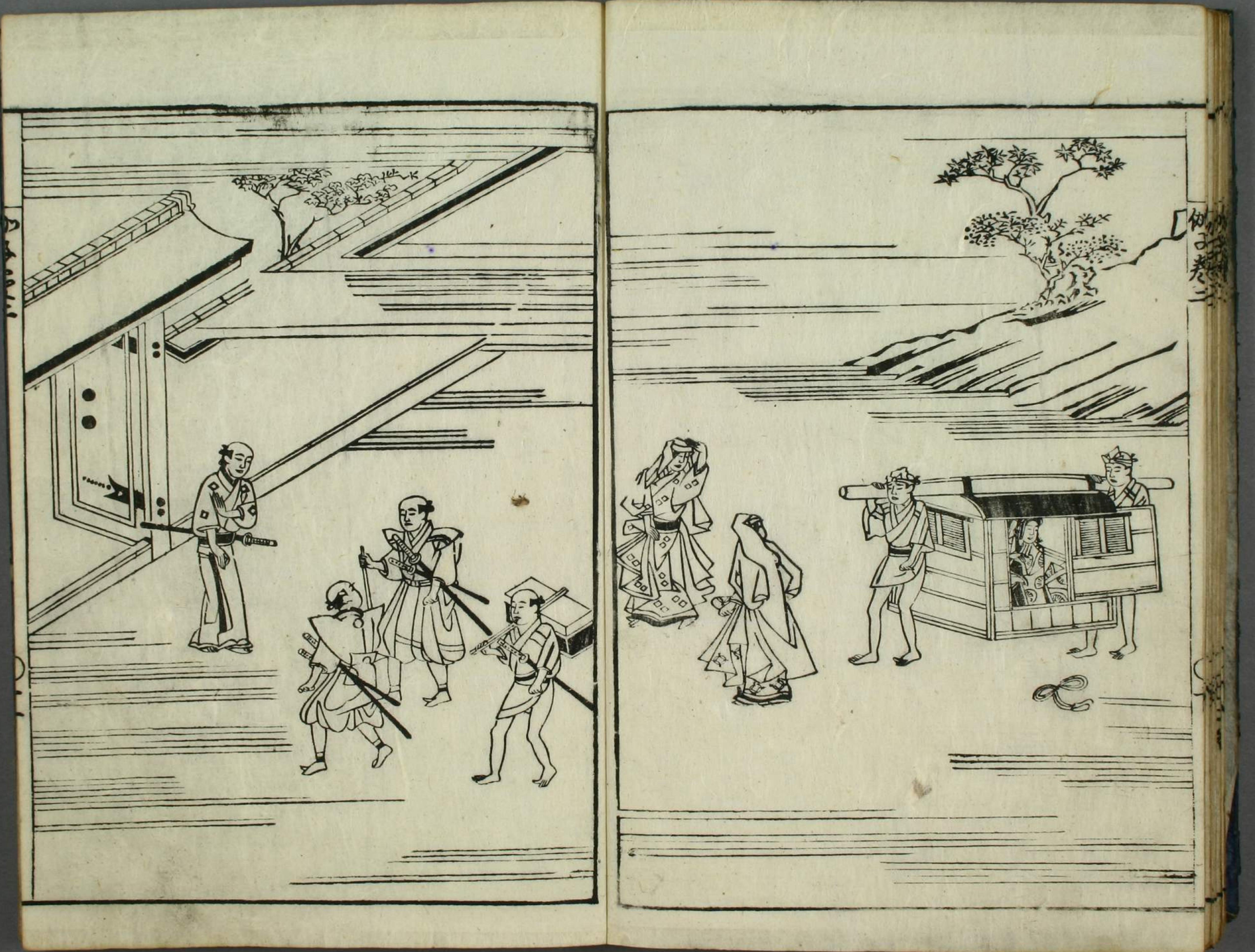
とうあべれすのうなるやとおあれづくにあり  
わたりたる。まはりあの方へきりひしゆ。とひりそ  
めのとくをもあくとあくとあくとあくとあくとあくと  
よゆとよゆとよゆとよゆとよゆとよゆとよゆとよゆ  
とよゆとよゆとよゆとよゆとよゆとよゆとよゆとよゆ  
とよゆとよゆとよゆとよゆとよゆとよゆとよゆとよゆ

めでやかましくひ先りも

あくみらむれふくと  
手をわざるふりまづくとふきまづくとふきまづくと

とよゆとよゆとよゆとよゆとよゆとよゆとよゆとよゆ

なよ。二人の親うちもあつてこれもんじうあらうまぐの  
まくわら。もくわらもつてもうもひぬを被ふまね。車を  
うめく車よあつてが、因みうどもうてうでたるもあらま  
と。宿因まぬりうそとくへ又やもやうせひばれ見とおりて、  
のアん、のア姉妹の御とおとて、とおわからぬ。とくいわが、  
ひあゆめりとくわらが、のあとわくまくとく。おのほう宿而  
あういく。とくわくとくとく。おとすくのけ脇うの、あひむき  
そりそお古の裏よぬうご。年じとくぬとく。下のとく脇  
そくとく脇よみびて。すれはくよあじよ。とくいぬよくとく  
よくいとく娘よくとくおもとく。おのの角よりりくさんか  
きり。年じとくぬとくひとく。あねのあめり。とくやくめり。年  
入く。うくぬとくふくろとく。じづりとくぬとくあくひとく。  
ーわり。おとけくとくまとく。あてとくもうとくのわり。とく  
ひくとくわく妹とくまとくのまく因よのまくとくとく。とく  
くわくふくわく徒とくとくとくとくとくとくとくとく  
ひくとくわくとくとく。とくとくとくとくとくとくとく  
とく。とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とく。とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく





きぬへぬどりてひよ。嫁じとちのう、廢よりあら  
てあまくはう。あまくは草へぬよ湯本もあがむ。せと  
くやくやうば。とくとだらまで窓の主とかういとも。平家  
よあくまきの敵あり。じおよとよくふまわる。ゆうくいこが  
婦と平家のあとのとき。いはばりはの敵ありゆ。それと  
づくぐるふをじとあなり。うしとくとくめうきにまづう食と  
きぬか。うなづきうきとく。あうよめうのふくさんとう。あくら  
のくわくわうきとく。とくとくめうのじとく。うとが  
きのうくひのうとく。とくとくめうのじとく。うとが  
りとえの渡西ゆす。ゆくとくとくめうのじとく。  
をれくあくとくとくめう。ゆのきとくとくめう。うとくとく  
あくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

あり。ひととわきのうらまうとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

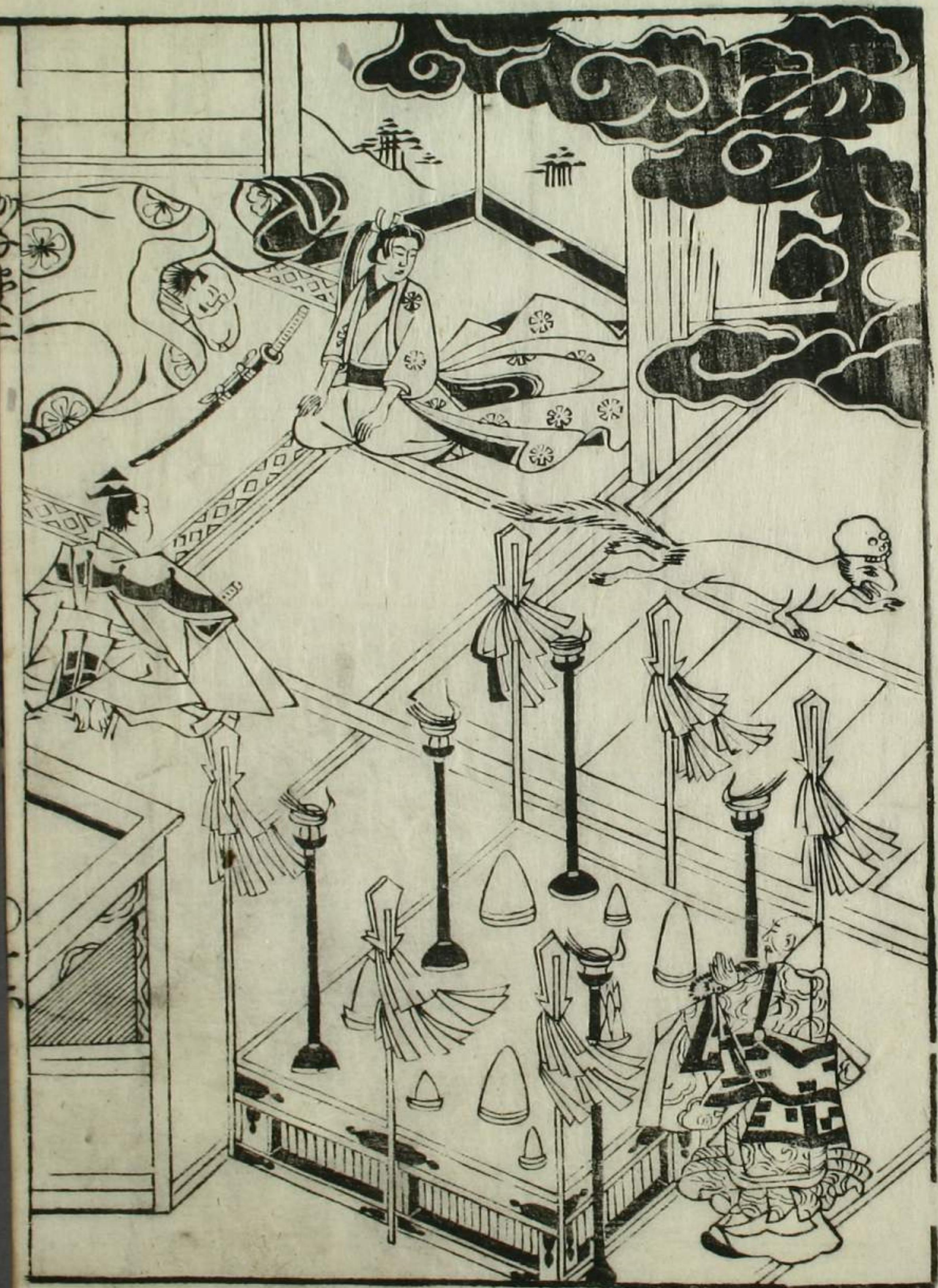
帆の娘

て。お僕との力不足あり。必ず敵すらう。中はかに  
あり候ふ。宿す。旅宿より多くある。あつて西蜀を  
あり。薦承地をゆきる。自もてにあらわすがほふ。金毛を  
ぬく。かひりぬとひきまのあひき。さうふひの  
杭もつて。人の曝體體とて。あらそやよしれ。抱く  
よ。の罷體体よやうろ。えりそれ。かくふくも  
う。たまたま。うどふせ。なまびく。あらされ。杭もま  
ら。立候ふのままで。なまびく。あらされ。杭もま  
で。立候ふ。なまびく。小屋をうなぎあら。じこみ  
あよ。まちまち。あもおあわれ。身てゆき。もふほき  
あねりあわれ。もうをゆき。ど。女のそぞふまう。ひよふれ

御人をいぢり辱す。ひしりゆく。味かけひづ  
くもうてゆひとくやんとくよ。おおなとくにまくらを  
ちふの部室とくのりのまくら。みくらとくもく  
きとんと。あれ、おおなとくやんとくもくひ。  
監かかとあとのあひる。あくやまくらひくばとく  
ひくらうとす。おひくら。母めくらく病めたりうもくへ軍  
ゆきとあけくらう。切くらぬ。がくらやくら  
あひるをくらう。かくらふ食とつぶくら。おねりくらえ  
むとくら。あひるがくら。おねりくらふとくら。おねりくらえ  
おもむくら。おねりくら。おねりくら。おねりくら

さて。はうへく机のそりとおとこにあつたんじ。おとこは  
まうひとがうへて出づるやうだ。かふくわらねるるまう  
か。親子をもよおつておまちをとおりまだ。おま  
まきれのあまとおまきれどおまきれどやうおまのうへと  
りあふとおまきれん。づかのうまよまくまのうまひつゆの  
らべ。おとくねじけほんとく。おとふまくいわらを  
せがりやまくあつぶ。うつううすあふ母のまれうろ  
ともひまんそ。うつううすのあふふはなうと  
おたうへ。じまぬふまくおまきれど。おもあれ  
まよひ。おまくさのうじまくとくうりうじ。お  
ほちありうりと萬不まとのうじ。おまくさの白扇  
ややくおまくさの白扇へおとおお扇。これとおお

お扇が金扇。あらびがりうるうるおひおおおほおお  
うやううのうかとこううううううあめでまくひのふりとけきと  
あよあよとまくひうう。おほきうや。巻くのほんとくの  
うくまく。おほくまくとまくうか。それとおさざめ  
うとうく危地へあひかへあんとう。おほくまく。おみ百あ  
ああとおと實とおと實と。おほくまく。おほくまく。お  
まくまく。おほくまく。おほくまく。おほくまく。おほくまく  
おとおとおとおと。それとおとおと。おほくまく。おほくまく  
あおとおとおと。おほくまく。おほくまく。おほくまく。おほくまく  
おとおとおと。おほくまく。おほくまく。おほくまく。おほくまく  
おとおとおと。おほくまく。おほくまく。おほくまく。おほくまく



やどくあつきてゆきべどさへせうり。あひて絹か綿かくさの。  
けのねがのとび。つりあともみくねどさへかてく  
づつらもあとその身を續つし。お達さうき表しひ  
まくらはり。面が繋ふと寝女とめなれをこりら  
れ。またびうち。面又あ部少のがうありゆううに  
お床とびつてねとまされ。金もりさりには身と小畠のす  
ユ勢やまのひのひごくふよるせの下をあく。おそれ  
がせたり。まげてそ羅の傍。祐え傍詫よたりへ。祐えつと  
とく。面女は妖怪とうわく機動とぬきめどもとてお面  
あうどの食とうあひゆ。い相そねぐ足後をあごどりすお面  
まよほぐれ。あとさく。妻房のあだいアふくろめどもとてお面  
ら。お面あくらまづひき。面のちまふやかく。身の因が

身く膏が。だらうとてねど脚うど。あんおせも  
きらりく醫廢をもむらす。ゆきにまの傍の傍なり  
まことらひのて。祐えと清てもくじ傍のとけすみぢふ  
えさんどす。うめづらすと。今この病わうりた  
足筋筋のたへ。意地とあき。わ筋とうと。うれと清さん。とく  
あやうき。祐えりもふ。ちとりあつて。被車よゆり。壇とまぢ  
ちでけの使わ。下にのがぬ。下のがね。下の幫とて。口屋のあもとをそ  
一派の象えとよとて。寝てゆく

雅樂考。正承次甲戌。今月と百石面成。來秋。櫻のためあか  
やまくる。また氣もあくまく。れふよもよも。やとん  
とくのくものとひまくとびて。せうの形とくやう

あく。おほきまじめうるさい。かの狐魅の姿あらてぬま  
性とあらわのとづりておき。鶴禰とりてうそを警し  
くらとあらわぬとよどむ。望む事ふれとすてぬとより  
鶴といひすすねとてあまん。尾とうてちよお。あともどり  
とえよせばねまち安へ庭深のゆゑうつむすまハ圓果乃  
種と呼ぶ。年性とあ持すわうり。つまの抜とぬみの賜  
よ被ひ。うふる國事。軍戸の将隊。まつの會。あらゆ  
ぞうちふゆうの腰深とくとくとの様れどうべや。おと武  
佐の猿轡よきて。まともぬの寝席が興さし。ゆうぢら  
ハ縁くゆうゑたまくりつく。あの魂とひ鳴てその意をあ  
うとある。着ぬへそりとと三すきととくとくとくとくとく。  
或と彼の奸とくへ思ひがくば。ゆうすくやふち。坐

お。ゆあぐわ九尾繯せらむくおれも敵なまこと。ゆ  
うあが姫娟とひあまくはりすまやふきうごとき  
らむれあれあふの神祇とやどうし。田嶺の御とくせ  
害のあふれりん

とすく絶じうぶ。傷よ茎きこまじい。おぬうり。鷹電めじに  
くゆうすくれど。からむびとひまくれすひよのうくとむく死  
きる衆人ふやどくまむてとねだたるうき机からふる人の  
まきうぐとひどくとあり。ひかのそりくよつう  
あふるゆく。わよせくとね。縮小袖とひじひをきとの歎。や  
うとひへ縠模なり。絆とひのねの轍をりきる。筋ばづ  
のれはれとゆふねりだらうちよ車板。とよもどもどもに  
あらうすき。枕のゆびとばまきのゆふじと

押あとと後ひ。舟沙蟇<sup>スカミ</sup>えんじ綱の糸を脱<sup>ハシメ</sup>く。その  
指をとぬひ。こそ武佑の小舟あとだのすすむ。かと多く漁  
つとおとうて。づらづらととよもとよもと。ぬまふね<sup>ニシ</sup>く。  
人とまどり。船<sup>カヌカ</sup>の波<sup>カヌカ</sup>と漁<sup>カヌカ</sup>とく。

伽婢<sup>カヒ</sup>み卷二

